

下田まち遺産案内

07 ほんごうこうえんさくらなみき 本郷公園桜並木

昭和30年代に稲生沢川の整備に伴い植えられたものです。730mの散歩コースが整備され、手を伸ばせば桜に触れられそうです。夜になるとライトアップされ、幻想的な空間を演出します。桜の季節はもちろんですが、その他の季節もウォーキングやジョギングを楽しむ人で賑わっています。



左写真 手をのばせば今にも届きそうな桜並木。
右写真 寝姿橋より桜並木（北方）を望む。



08 いなずさのてつきょう 稲梓の鉄橋

稲梓の鉄橋の正式名称は落合川橋梁といい、昭和36年に完成しました。高さ21mもある人工物ですが、その形や色合いが、期せずして周囲の景観に調和し、さらに良いアクセントとなっています。そのため市民からは「稲梓の鉄橋」と呼ばれ親しまれています。



左写真 真下から稲梓の鉄橋を見上げる。
右写真 国道方向から稲梓鉄橋を望む。



09 ねすがたやまのつわぶき 寝姿山のつわぶき

10月から11月にかけて花を咲かせるツワブキの群生地として有名な場所の一つが寝姿山です。一説によればツヤのあるフキに似ているためツワブキとよばれ、それがいつしか、ツワブキと言われるようになったとのこと。海の近くではイソブキとも言います。あたり一面を黄色い花が埋め尽くした光景は時間を忘れさせてくれます。



左写真 寝姿山山頂付近では自然公園になっており、時季になればつわぶきが咲き乱れる。
右写真 顔を近づけてみると、黄色い花火のようにみえる。



10 こうちすわじんじゃはなびほうのう 河内諏訪神社花火奉納

河内の手筒花火は、約270年前から河内地区に伝えられた伝統的な花火製造の手法を地元の若衆が再現。毎年10月には、自らが精魂込めて作り上げた花火の火の粉をもっともしい勇姿を見せてくれます。また、仕掛花火の完成度は職人の域に達しています。



左写真 迫力のある花火が天高く吹き上がる。
右写真 火の粉が吹き上がる手筒を脇に抱える奉仕者。



下田まち遺産案内

11 つじのだん 辻の段

450年以上前から存在したと伝えられる辻の段。外からの悪霊を防ぎ、旅人の安全を見守る道祖神が祀られています。この場所からは松崎までいく道が整備されていたと伝えられています。この道祖神を守る祭は現在も地域に受け継がれています。



左写真 大沢の奥に進み、農道（大平戸線）の高台にある辻の段。
右写真 眺めがよく、左手の山の植林木が成長する前は、富士山山頂が見えた。



※非常にわかりにくい場所にあります。見学の際は注意して下さい。

12 しもおおさわこうしんとう 下大沢庚申塔

庚申信仰によって建てられたもので体内にいる三尸という虫が、60日に一度の庚申の夜に人が眠ると、その人の悪事を天帝に告げ、天帝は人を早死にさせたといわれています。そのため、人々は庚申の夜に庚申塔の周りに集まり、夜明けを待ったと伝えられています。



左写真 大沢の奥に進み、農道（大平戸線）の脇道にある庚申塔。
右写真 この場所から松崎へ向かう旧道になっていた。



※非常にわかりにくい場所にあります。見学の際は注意して下さい。

市民会議で認定された下田まち遺産

※現在、認定作業中。

13 れんだいじてんじんじんじやだいにちによらいざろう 蓮台寺天神神社大日如来坐像

国の重要文化財で藤原様式による鎌倉初期の名作であり、伊豆の仏教美術を代表する作品の一つとなっています。市が指定する文化財の四天王像とともに天神神社に安置されています。



魔寺となった蓮台寺の御本尊であったと伝えられる。



14 こうちほうきょういんとう 河内 宝篋印塔

元々、重福院の北西側対岸の高台にあったが、時代の移り変わりとともに移動を繰り返し、最終的に現在の場所に安置されたと伝えられています。



高さ約4.7センチもあり、妙忍が地主となり建立された。



15 ひやくじぞう 百地蔵

中央の地藏菩薩坐像の周りを100体の小さな石像が取囲む光景は見事です。はじめは個人宅の屋内安全のために作られましたが、多くの人にみてもらいたいと現在の場所に移されました。



百体もの地藏が並ぶ様は見事。

